



公正な
事業慣行

目指す姿

バリューチェーン全体での CSR活動の推進

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」、「行動指針」に則り、「公正、透明、自由な競争、ならびに適正な取引」および「政治・行政との関係における健全で正常な関係の維持」に努めるとともに、取引先における法令遵守

についても要請しています。さらに、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明し、贈収賄などの腐敗の防止への姿勢を明確にしています。

CSR調達の推進

持続可能な原材料調達とサプライヤーへのCSR活動の働きかけ

当社は、バリューチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化することが重要な課題のひとつであると考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、取引先と当社とがCSR活動を深化させることが必要です。

また、当社が独自に開発した植物由来の洗剤原料である環境対応型界面活性剤「MES」に使われているパーム油については、持続可能なパーム油の調達を推進することが重要です。

【「MES」の優れた特長】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>

● 持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、カーボンニュートラルな原料として植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油であるパーム油を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。

パーム油は生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれともなう野生生物の生息地の縮小などの問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など、社会的公正を欠くさまざまな労使問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO*1)」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、パーム油が納入されるライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社は2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しています。当社は2015年末までに、使用するパーム油をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2014年7月より購入パーム油を全量認証油化し、目標を達成しました。また、2020年に向けた新たな目標を下記のとおり設定し、2015年目標の通り、RSPO認証パーム油誘導体の購入を開始しました。

目標

2015年：RSPO認証パーム油誘導体の購入開始
2020年：パーム油誘導体全量をRSPO認証化

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。



ライオンケミカル(株)の
RSPOサプライチェーン認証

*1 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議) URL <http://www.rspo.org/>

RSPOでは、「環境に対する責任と資源及び生物多様性保全」「新規プランテーションにおける責任ある開発」「農園、工場の従業員及び、影響を受ける地域住民への責任ある配慮」などの持続的なパーム油生産に求められる8つの原則と43の基準を定めており、これを満たして生産されるパーム油のみを持続可能なパーム油として認証している。

● 原材料メーカーや生産委託先とのCSRの推進

当社は、責任ある調達活動を推進するため、原材料サプライヤーおよび生産委託先へ「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン*2」に基づくセルフチェックを依頼しています。人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンスに関するサプライチェーンにおけるリスク回避に向けた仕組みづくりを推進しています。

2014年はセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的に取引先が回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいた取引先に送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立しています。

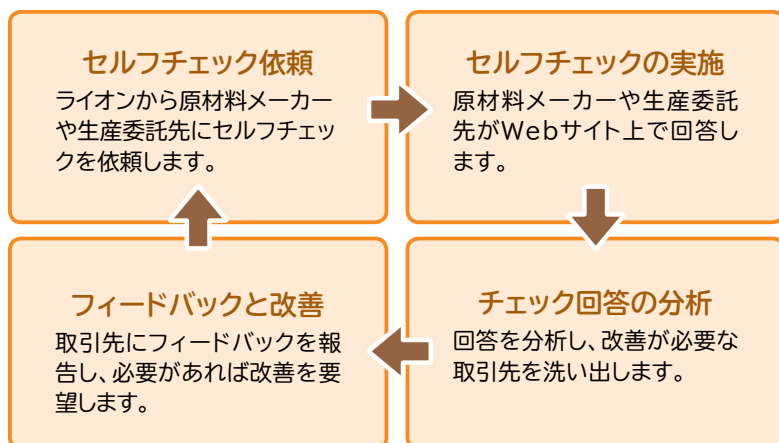
今後も取引先とともにCSR活動の取り組みを推進します。

● CSR調達の取り組み年表

2005年	原材料や製品の適正な調達のための「購買に関する基本方針」を制定。
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。
2013年	「調達基本方針」を改定し、法令遵守、環境保全、人権尊重などからも取引先を選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するCSR活動を示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のCSR活動のセルフチェックを依頼。

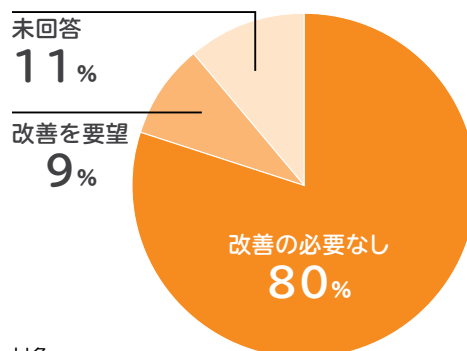
〔調達基本方針〕 URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

● セルフチェック依頼～フィードバックのフロー



※CSRの重要性を取引先に理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、CSRを取りまく情勢の説明を記載するなど工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

● ライオングループサプライヤーCSRガイドラインに基づくセルフチェック全体集計結果



対象：
ライオン国内グループの
原材料メーカー・生産委託先、
計633社（国内：544、海外：89）

結果概要

- すべての項目について改善の必要がない取引先は80%、1つ以上の項目について改善を要望した取引先は9%、未回答は11%でした。
- 未回答の取引先に対しては、状況のヒアリングなどを通じて協力を要望しています。

Webサイトのご紹介

正しい事業活動のために（公正な事業慣行）
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/>



*2 ライオングループサプライヤーCSRガイドライン

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。

- 1.人権・労働 3.公正な事業慣行 5.コンプライアンス
2.環境 4.消費者課題

URL 日本語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>
英語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/eng.pdf>
中国語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/cn.pdf>